

米子市A I 積極的活用方針

米子市長 伊 木 隆 司

1 目的

深刻化する少子高齢化や人口減少、社会情勢に伴う物価高騰など、当市を取り巻く課題が複雑化しています。こうした中、「住んで楽しいまちづくり」の理念を実現するために、業務の抜本的な効率化と高度化を図るべく、急速に進化するA I（人工知能）を積極的に取り入れ、次世代にふさわしい行政運営の実現を目指します。

A I を積極的に活用することで、限られた行政資源を最適に配分し、市民サービスの質の向上と、誰もが心豊かに暮らせる持続可能な地域社会の構築を目指します。

2 3つの活用指針

(1) 業務への積極的な活用

文章作成やアイデア出し等への活用のほか、RAG（庁内データ学習）環境の整備や、職員に代わり一次審査を行うA I エージェントの導入を進めるなど、A I を中心に事務フローを構築し、行政事務の迅速性と正確性を高めます。

(2) セキュリティとガバナンスの徹底

利便性と安全性を両立させるため、A I による生成物の真偽確認や著作権保護に留意するとともに、機密情報や個人情報の生成A I への入力を厳に禁止します。

(3) A I ネイティブな人材の育成

様々な研修による全庁的なデジタル能力向上を図り、A I で業務変革を牽引する意欲のある職員を育成します。

3 A I 活用により目指す姿

A I の活用によって定型的な事務負担を軽減し、そこで創出された貴重な時間は、職員にしかできない高度な価値創造のために最大限活かしていきます。

市民一人ひとりの状況に深く寄り添う「きめ細かな対面相談」の充実や、地域特有の複雑な課題を解決するための「創造的な政策立案」など、職員が対人支援や判断業務に全力を注げる体制の構築を目指します。

所管：DX推進監
情報政策課